

大阪市立森之宮小学校「学校いじめ防止基本方針」

いじめの定義

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

（いじめ防止対策推進法 第2条）

1 本校の基本方針のポイント

上記の考えをもとに、本校では「いじめはどの学校、どの学級でも起こり得る。」という認識のもと、子ども一人一人の人権を尊重し、「子どもの思いに寄り添い、子に応じた可能性を育む教育を創造する」ために「森之宮小学校いじめ防止基本方針」を策定し、取り組みを進める。

本校は、いじめ未然防止を最優先と位置づけるとともに、早期発見・早期改善・解決をめざすポイントは、以下の4点をあげる。

- いじめを許さない、見過ごさない学校・学級づくりを行い、未然防止に努める。
- いじめの早期発見、早期対応のために適切な手段を講じ、当該児童の安全を保障し、その尊厳を守ることが最優先する。
- 指導体制を整え、早期解決に向けて家庭と連携して取り組むと共に、学校内だけでなく地域や関係機関、専門家と協力して指導・支援にあたる。
- インターネットや携帯電話を使用する際のルールやモラル等、情報教育について理解を深め、活用にあたるのルールづくりを推進する。

2 いじめの未然防止についての取組

<基本姿勢>

いじめは、どの児童にも起こりえる、どの児童も被害者にも加害者にもなりうるという事実を踏まえ、全ての児童を対象に、いじめに向かわせないための取組を全教職員で行う。

(1) 授業改善について

- ① チャイムが鳴ったら着席する習慣や授業中の正しい姿勢の保持等の学習規律を身に着け、思いや考えを伝え合うことができる子どもを育てる。
- ② 公開授業や校内研修会を通して教職員が互いに学びあい高めあう機会を設け、指導力の向上を図る。
- ③ わかる授業づくりを進め、すべての児童が主体的に参加し、活躍できる授業づくりの工夫を行う。

(2) 自己肯定感を高めるために

- ① 他者の役に立ったり、協力して困難を乗り越えたりすることに喜びを感じる機会を積極的に設ける。
- ② 縦割り班活動など異学年交流を日常的に行い、学校全体として人と人のつながりを大切にする活動を推し進める。
- ③ 全校児童集会や地域行事への参加等、児童が主体的に取り組むことを通して、保護者や地域の方々とのつながりを深く感じることができるようにする。

(3) いじめを許さない・見逃さない雰囲気醸成

- ① 児童の実態に合わせて、内容を十分に検討した題材や資料等を取り扱った「いのちについて考える日」の実践や人権教育や道徳の授業を実施する。
- ② 「いのちの学習」を通して自分たちの成長や周りで支えてくれた人たちの感謝の気持ちと命を育む大切さを学ぶ。

4. いじめの早期発見及び早期対応についての取組

<基本姿勢>

いじめは、大人が気づきにくく判断しにくい形で行われることを認識し、ささいな兆候であっても、いじめではないかとの疑いをもって、早い段階から関わりをもち、いじめを隠したり軽視したりすることなく、積極的に認知する。

- 働き方改革を推進し、教職員と児童が共に過ごす機会を積極的に設けることで、いじめの早期発見を図る。
- 休み時間や昼休み、放課後等常に児童の様子に目を配ることができる教職員の監護体制を心掛けるとともに、教職員間の情報交換(スクリーニング会議Ⅰ)を丁寧に行う。
- 担任を中心に教職員は、児童が形成するグループやそのグループ内の人間関係、個々の生活背景等の把握に努める。
- 担任は、一人一台端末の活用(「心の天気」含む)や日頃の生活のようすを観察することで、児童理解に努め、保護者にも日頃から連絡を密に取り、信頼関係を構築する。
- 気になる内容については、教育相談や家庭訪問等を実施し、迅速に対応する。
- 日常生活の中での教職員の声かけ等、児童が日頃から気軽に相談できる環境をつくる。
- 学期ごとにいじめアンケートを行い、実態調査を行う。
- 発見までの計画について 5W1H(いつ、どこで、誰が、誰と、何を、どのように)を簡単に記録し、事実を正確に把握すると共に、今後の対応に活かす。

<いじめの解消>

単に謝罪を以て解消とはならない。いじめに係る行為がなくなり、被害児童が心身の苦痛を感じる事がなくなったことが認められなければならない。

6. いじめ問題に取り組むための校内組織

(1) 学校内の組織と体制の整備

- ① いじめ対策推進法第22条に基づき、本校のいじめ防止等の対策のため、「森之宮小学校いじめ・虐待防止推進委員会(以下「委員会」という)」を設置する。毎月行う児童理解連絡会をもとに開催。
→※必要に応じて開催

②委員会は、委員長を校長とし、教頭・教務主任・生活指導部長・人権教育主担者、関係学年担任・養護教諭等で構成する。

<役割>

- ・学校基本方針に基づく具体的な年間計画の作成・実行・検証・修正を行う。
- ・いじめの疑いに関する情報や、児童の問題行動に関わる情報の収集や記録、共有を行う。
- ・いじめの疑いに係る情報があった場合には緊急会議を開催し、迅速な情報の共有、関係児童への事情聴取、指導および支援の方針の決定、保護者との連携を行う。

③複合的な支援体制を作るため、SC や SSW 等の活用も積極的に図っていく。(スクリーニング会議Ⅱ)

(2) 保護者や地域・関連機関と連携し取組内容の検証

- ①学習参観や学校行事において保護者や地域の方々に来校を促す。
- ②ホームページや学校・学年だよりを通じて家庭や地域への情報発信・啓発を行い、児童の活動の様子をタイムリーに伝える。
- ③学校協議会において「運営に関する計画」を総括し課題を明らかにして、解決に向けてPTAや地域、区役所と連携・協働する体制を構築する。
- ④PDCAサイクルを各行事や取組で実施し、森之宮小チーム学校としての団結を図り、よりよい学校運営を確立していく。
- ⑤個人懇談会や家庭訪問等での児童の様子について、教職員全体で情報を共有しておく。

7. 重大事案への対処

- ・大阪市いじめ対策基本方針に基づき対応を行う。

※校内での組織的ないじめ対応の流れ

- ・学級担任等が抱え込まず、「いじめ対策組織」で迅速かつ的確に対応

組織的ないじめ対応の流れ

- 「学校いじめ対策委員会」で迅速かつ的確に対応
- 児童観察、心の天気、面談、アンケートにより早期発見

いじめの発見

- ① 情報を集め組織的に共有
 - ・学校いじめ対策組織に情報を集約
 - いじめを発見した場合はその場でその行為をやめさせる
- ② 指導・支援体制、方針決定
 - ・学校いじめ対策組織で指導・支援
 - 校長のリーダーシップのもと教職員・SC
 - ・SSW・SSET、区役所、関係機関と連携協力

- ③ 子どもへの指導・支援を行う
 - ・いじめを受けた児童
 - いじめから救い、徹底的に守り通す
 - ・いじめを行った児童
 - 反省を促し、人権意識をもたせる
 - ・いじめを見ていた児童
 - 止めさせられなくても知らせる
- ④ 保護者と連携する
 - ・基本的に家庭訪問行う
 - 事実関係を伝えとともに、今後の連携について話し合う

- ⑤ 今後の対応
 - ・継続的に指導・支援
 - ・SC等の活用(心のケア)
 - ・心の教育の充実

☆解消している条件

- ◎いじめの行為が少なくとも3か月間止んでいること
- ◎被害児童が心身の苦痛を感じていないこと